

## 伊平屋ジューター（伊平屋島のおもてなし）

伊平屋村立野甫中学校 1年生 大城 咲綾

私は沖縄県最北端に位置する伊平屋島に住んでいます。人口約一三〇〇人。お年寄りが多く、子どもの数は減少しています。このような島に観光客は訪れてくれます。野甫大橋から見えるキラキラまぶしい海。ウミガメが悠々と泳ぎ、頭をのぞかせているのを時々見かけます。そして豊富に獲れる魚。釣り人も多く見られます。朝は小鳥のさえずりで目を覚まし一日がスタートします。

自然環境に恵まれた伊平屋島にはたくさんの地域行事があります。毎月一回伝統文化の日として各字の公民館に集まり、踊りや棒術など地域の伝統文化を学べる時間があります。次の時代を担う私達が地域の方から直接学べる貴重な時間です。

この島の宝は恐らく「子ども・つまり私達」であると思います。それは、次の時代を背負う私達に対して惜しめない支援があるからです。その一つに中学生対象の無料塾の実施。それで週三回学んでいます。

二つ目に「おもてなしの心」を学ぶために小学六年生と中学三年生を対象とした「ディズニー研修」。私達は夢の国ディズニーランドに実際に足を運び「おもてなし」を体感します。

三つめに小学六年生から中学生を対象に夏休みを利用して行われる「東大塾」があります。現役の東大生を講師に招き十日間開講します。

このような取り組みは、私達が高校から親元を離れ、生活を送る「島発ち」を視野に入れたものでもあり、将来的に島や沖縄・日本に貢献できる人材に育ててほしいからだと思います。

私達のために様々な取り組みがあり、この地域の優しさや「おもてなしの心」はこうして島全体の活動を通して培われていくのでしょうか。そこに島としての発展があるのだと思います。

また、伊平屋島には「ムーンライトマラソン」という島をあげての一大イベントがあります。そこには沖縄県内はもちろん、県外や外国からもたくさんの人が参加します。そして島に魅せられた方々はリピーターとして再びきてくださいます。月の光に照らされ、夜の島を走ります。走り終わった後は島特産のもずくそばや牛汁も振る舞われ、疲れを癒すことができます。舞台では催し物が行われ、島の人総出で歓迎します。

私は昨年スタッフとして参加し、完走した方々にメダルをかける係を担当しました。夕方からゴール地点で待機し、完走者一人一人に笑顔でメダルを首にかけました。初めは疲れ切った人にどう話しかければいいのかわからず戸惑い、タイミングをのがさないよう必死でしたが、何回かやっているうちに自然と笑顔で一声かけていました。その時、「ありがとう」という声が聞こえ、とてもうれしくなりました。

このイベントには応援も含め、子どもから大人まで島全体で関わり、みんなでつないできました。走りに来てくれる人に島の自然や景色・島の人との交流を楽しんでもらい、「また走りにきたいな」と思ってもらえたらこんなにうれしいことはありません。「島全体でおもてなし」。伊平屋島には「伊平屋ジューター」ということばとともにこの心が受け継がれていると思います。それは「おもてなし」という意味です。毎年千人近くの人を受け入れ、継続していくには欠かせない心だと身を持って感じました。

観光とはどんなにすばらしい景色があっても心からのおもてなしがなければ人はまた来たいとは思いません。それは自分自身が心から楽しむことで、人を笑顔にしたり、幸せにすることができるのだと思います。

沖縄の玄関となっている空港や港でもスタッフさんによるお出迎えがありますが、私達は、地域に住む一人として観光の発展にたずさわることができると思います。それは道を教えたり、あいさつをしたりとささいなことですが、大切なことだと思います。写真には収めることのできない「心の交流」がまた来たいと思う気持ちにつながるのだと思います。

私達中学生も島の観光案内人。「伊平屋ジューター。」伊平屋島のおもてなしを私は誇りに  
思い、これからも観光客を笑顔で迎えていきたいと思ひます。